

広報しらぬか 1000号のあゆみ

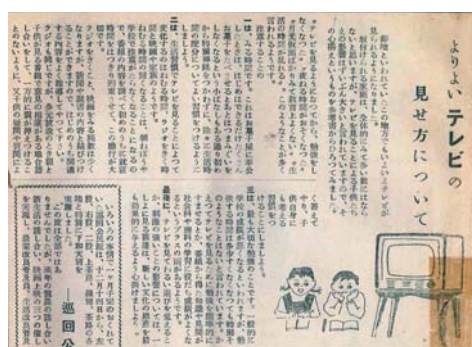
広報しらぬかは、今回で創刊1000号を迎えました。約70年という長い歴史を歩んでこられたのは、皆様のご協力とご支援のおかげです。今回の特集では、町の歴史とともに歩んできた「広報しらぬか」の歴史をたどります。



創刊号 昭和25年11月1日発行



白糠が「村」から「町」になった昭和25年11月1日に、記念すべき創刊号が発刊されました。創刊号はタブロイド版で年4回の発行でした。創刊号を見ますと、青木金吾町長の言葉として「本町は東西7里南北14里におよび交通道路その他の関係上、調整自治の動静やあらゆる現況を身近に知悉することができないのを遺憾に思っ申し訳なく感じておるのがあります」とあります。町報「しらぬか」の発刊は、町制施行とともに町民が長く待望しているものでした。



PICK UP 46号 昭和35年。テレビが白糠町でも見られるようになりました。それを受けて、テレビが子どもたちにどのような影響を与えるのかを広報紙でお知らせしています。

100号 昭和40年3月25日発行



表紙は白糠小学校の1日入学の様子。この年の新入学児童は、町内の全学校合わせて380人でした。100号には、農業についての体験や思いを発表する「農村教育青年会議」の全国大会に出場した、当時河原4Hクラブに在籍していた峯田幸子さんが取り上げられていました。4Hクラブでは、平成29年に開催された「全国青年農業者会議」で最優秀賞を受賞するなど、白糠町の農業をより良くしようという思いは、現在に受け継がれています。



PICK UP 118号 白糠町民憲章は、昭和42年の成人の日に生活の目標として公布制定されました。現在でもさまざまな場面で憲章の唱和が行われています。